ボーリング柱状図

調　査　名

事業・工事名

ボーリングNO.

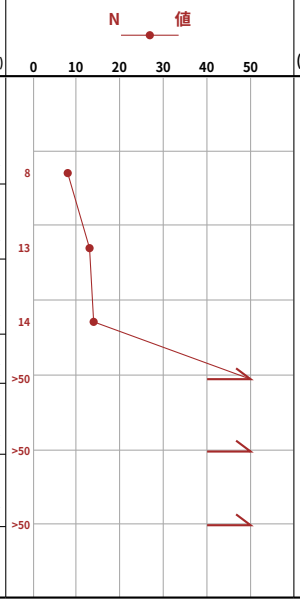
シートNO.

ボーリング名	No.1	調査位置				北　緯	36 ° 47 ’ 50.0000 ”
発注機関	栃木県大田原土木事務所			調査期間	2009-11-14 ～ 2009-11-19	東　経	140 ° 14 ’ 57.0000 ”
調査業者名		主任技師		現場代理人		コア鑑定者		ボーリング責任者	
孔口標高	236.08 m	角度	180° 上 90° 下 0° 0.00 °	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	地盤勾配	鉛直 水平 0° 90° 10.00 °	使用機種	試錐機	ハンマー落下用具	
総掘進長	6.03 m								エンジン	ポンプ	

標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事	地層岩体区分	孔内水位 (m) ／ 測定月日
1	235.68	0.40	0.40		シルト (M)	暗茶			-0.10mまで腐植土層、全体に草木根混入 φ10mm内外の礫が混入		
2					粘土混り砂礫 (GS-C)	茶褐			礫はφ10～30mm程度の亜円礫主体 礫間は細砂～粗砂と少量の粘性土（シルト・粘土）で「緩い～中位」に充填される φ50mm程度の粗礫点在 全体に風化礫が多く含み、礫間充填物の風化もみられる		11/18 2.90
3											
4	232.28	3.40	3.80		泥岩 (Ms)	暗灰			固結程度は極めて低い強風化岩、大部分固結シルトの土砂状を呈し、絶対的な硬さとしては極めて軟質、φ20mm程度の礫点在 コアは概ね土砂～粘土状を呈す		
5	231.38	0.90	4.70		凝灰角礫岩 (Tb)	灰緑～暗灰			-5.10mまでやや硬質な弱風化凝灰角礫岩、コアは礫状～短柱状で、コア採取率90% -5.10m以深風化変質し軟質で、コアは砂状(流失)～礫状主体となる、コア採取率30%、RQD 0%		11/17
6	230.05	1.33	6.03								11/18

標準貫入試験

深度 (m)	10cmごとの打撃回数 0－10	10－20	20－30	打撃回数／貫入量 (cm)
1.15	2	2	4	8／30
1.45				
2.15	3	5	5	13／30
2.45				
3.15	4	5	5	14／30
3.45				
4.00	41	9／2		50／12
4.12				
5.00	50／7			50／7
5.07				
6.00	50／3			50／3
6.03				



原位置試験 深度 (m)	試験名および結果

試料採取 深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験	掘進月日